

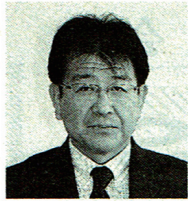
建設工業新聞

平成27年1月14日(水)5面に掲載

丸太杭の普及など活動継続

望 題
展 課

福井県木材利用研究会 吉田雅穂副会長



吉田 雅穂氏

福井県木材利用研究会(荒井克彦会長)は10年に発足して以来、木材の利用用途拡大と木材の安定供給2つを大きな目標として掲げ活動を続けてきた。定例の研究会では各分野で活躍する多くの

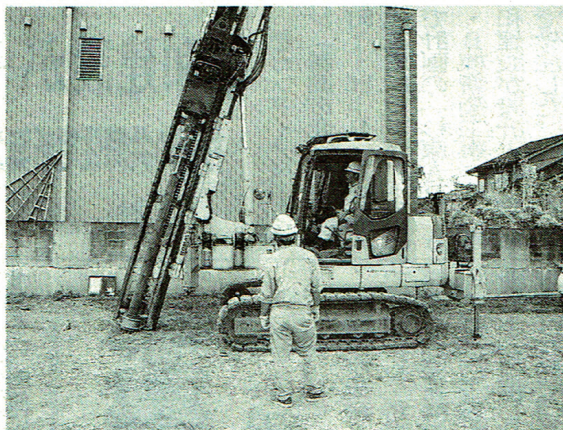
講師を招き講演を聴き、最新の情報を収集し、研究会委員のレベル向上を実現。また分科会として▽丸太杭の普及▽建築分野の利用拡大▽河川・砂防分野の利用拡大▽バイオマス▽安定供給の5つを設置し、研究活動の継続化も図ってきた。

教授(地域連携テクノセンター)長は「今後は木材利用の普及拡大とともに、本来の研究活動にもなお一層腰を据えて取り組み、川上から川中、川下まで木材の安定供給を図る仕組み(ネットワーク)を提案したい」などと研究の充実にかける意気込みを示す。

趣を異にし、産学官の一体型が強み。会員はバラエティに富み建築、土木、林業など異分野の者同士、刺激し合う形の勉強会を繰り返している。吉田副会長自身も元々は土木の地震工学(液状化対策)を専門としたが、会立ち上げ前の木杭の可能性を追求する官民2人との出会いに感謝する。これからは「公共

建築物等木材利用促進法の流れを受け、熱心な会メンバーとともに木材に高付加価値を与える技術開発をさらに推し進めたい」などと

意欲的に話した。荒井会長もこれらは分科会の研究成果を講演会などで公表していくとして、益々活動を活性化していきたい意向。



住宅の地盤改良で木杭を斜めに打ち、可能性の幅を広げる作業現場